あなたは聖書の預言が理解出来ますか？

何百万もの人達が、私達は現在すさまじく恐ろしい時代に住んでいる事を知っています。彼らは核戦争となる第３次世界大戦時の、いろんな「終末」のシナリオを描写した聖書の預言に関する本を読んでいます。地球の最後を予告するその様な書物の多くがベストセラーになりました。軍事戦略家や政治家達は、想像もつかない様な核戦争を「アルマゲドン」という聖書の言葉を用いて表現してきました。あなたは聖書の預言が理解できますか。それは「封印」されたものなのでしょうか。それを理解出来るのは極わずかな人だけなのでしょうか？預言とは一体何なのでしょう？ある特定の預言を、ある人は一つの形で解釈し、またある人は同じ預言を別の形で解釈する時、何を信じればよいか分かりますか？このシンプルではあるが深い内容を秘めた小冊子で、どうすれば「聖書の預言が理解出来るか」読み取って下さい。

ガーナー・テッド・アームストロング 著

聖書の預言の数々よりも興味深く神秘に満ちたものがあるでしょうか？いろんな金属とぬかるんだ粘土で形作られた偉大な肖像が出てくるダニエル書、３匹の獣を絶滅させる為に登場するたくさんの角や「小さな角」をもった獣達、不思議な封印やトランペットの災難が登場する黙示録、大きなドラゴン、太陽の衣を着た女性、象徴的な奈落の淵と言った様に、確かに聖書の預言には興味深く謎めいた不可思議な事がたくさんあります。

聖書全体のおよそ３分の１は預言なのです！大預言者にはイザヤ、エレミア、エゼキエルが含まれ、小預言者（彼らの予言は比較的期間が 短 いのでそう呼ばれています）にはホセアからマラキまでが含まれています。

ほとんどの人は気づいていないのですが、イエス・キリストは全ての預言者の中で 最 も偉大な預言者であり、彼の「オリベットの予言」（マタイによる福音書２４ 章 、マルコによる福音書１３節、ルカによる福音書２１節）は全ての予言を理解する上で 重 要 な鍵となっています。

まさかと思うかもしれませんが、創世記から黙示録の 間 にも預言が見つかります。詩篇のいくつかは本来予言的なものです。この惑星における人の生の 真 の目的や、自分がこの世に生まれてきた理由を理解する事は、予言を理解する事なくしては本当に不可能な事なのです！聖書の予言とは誰にでも理解出来るものなのでしょうか？

ダニエル書の最後で、大天使ガブリエルはダニエルにパレスチナ王国は北の大きな軍事国によって 占 領 されるだろう、と聖書の中で 最 も長い預言を最後に詳しく説き明かしています。聖書の中でも 最 も長く 最 も詳 細 な預言であるダニエル書１１ 章 に続く１２ 章 と最後の 章 でガブリエルは言いました、「その時、大天使長ミカエルが立つ。彼はお前の民の子らを守護する。そして、苦難が 訪 れるだろう。国が始まって以来、かつてなかったほどの苦難が。しかしその時、あの書に名が記されているお前の民全ては救われるだろう。そして、地の塵の中に眠る多くの者が目覚める。ある者は永遠の生命に、またある者は永 久 に続く恥と非難の的となる。」（ダニエル書１２ 章 １、２節）イエスの有名な「オリベットの預言」で、イエスは次の如く言われました。「その時、世界の初めから今にかけて、そして、今後も決して起こりえない程の大きな苦難が来るからである。神がその期間を縮めて下さらなければ、だれ一人救われない。しかし、神は選ばれた人達の為に、その期間を縮めて下さるであろう。」（マタイによる福音書２４ 章 ２１、２２節）明らかに、イエス・キリストの預言と大天使ガブリエルがダニエルに述べたこの預言は、同じ時期の事を語っています。

エレミアは次の如く述べています。「 災 いだ、 その日は大いなる日、この様な日は他にない。ヤコブの苦しみの時だ　しかしヤコブはここから救い出される。[その意味は、彼はそれを耐

え忍ぶという事で、それから救われるという事ではありません。]その日はこうなる、と万軍の主は言われる。お前の首の枷を砕き、 戒 めを解く。 再 び敵がヤコブを奴隷にする事はない。 彼らは永劫の神と、 私 が立てる王ダビデに仕える様になるだろう。」（エレミア書３０章 ７－９節）

これは聖書の予言の中でも有名な大いなる艱難です。 ガブリエルがダニエルに、「その時あなたの民は救われます！」と言った事に注 目 して下さい。ダニエルは何万というユダヤの仲間と共にバビロンで囚われの身だった事を思い出して下さい！ 北の１０支族からなるイスラエルの家は、アッシリア王シャルマネセルの軍によって何１０年も前に捕らえられていました。

したがって、聖書の預言の大いなる艱難は、神の民イスラエルに降りかかった災厄の時期である事は明らかです。（ヤコブの名前がイスラエルに変わった事を思いだして下さい！）

確かに、何 百 万 という人々は「大いなる艱難」という言葉をよく知っています。 それは世界規模の大戦争における、他に類を見ないトラウマ、苦しみ、心痛、病気、地震や津波、戦争による破壊や人命の損失の時代を暗示するものと思われている一般的な表 現 です。

さて、実際起こった事に注 目 して下さい！

「ダニエルよ、終わりの時が来るまで、お前はこれらの事を秘め、この書を封じておきなさい。多くの者が動揺するであろう。そして知識は増す。」（ダニエル１２ 章 ４節）

ダニエルの預言が封じられ、閉ざされた事に注 目 して下さい。 しかしその期間はどれくらいだったのでしょう？誰も決して理解できない様にその言葉は封じられたのでしょうか？ そうではありません！ その言葉は「終わりの時まで」隠され封じられたのです。

あなた方は「終わりの時」に生きているのです！ 後にダニエルは、「これら 驚 くべき事は、いつまで続くのでしょうか。」と尋ねています。 （ダニエル書１２ 章 ６節）

「すると、川の流れの上に立つ、かの麻の 衣 を着た人が、左右の手を天に差し伸べ、永遠に生けるお方にこう誓うのが聞こえた。『一時、二時、そして半時たって、聖なる民の 力 が

全く打ち砕かれると、これらの事はすべて成就する。』これを聞いても私は理解出来なかったので、尋ねた。 『わが主よ、これらの事の結末はどうなるのでしょうか。』彼は答えた。『ダニエルよ、もう行きなさい。終わりの時までこれらの事は秘められ、封じられている！多くの者が清められ、純白とされ、精錬されよう。しかし、邪悪な者は悪行を行い、誰一人としてそれを悟らないが、賢明な者達はそれを悟るだろう。』」（ダニエル書１２章６－１０節）ですから、ダニエルの預言は理解される事となります。ただし、それは「終わりの時」まで理解されないのです。

終末論者や聖書の預言の研究者達は何世紀もの間ずっとダニエル書と黙示録は互いに関係がある事を知っていました。聖書の預言はまるでおもちゃ屋さんで買うジグソーパズルの様です。完全な絵を仕上げるには、ダニエル書だけでなく多くの預言書と共にヨハネの黙示録も必要であり、中でも特にキリストのオリベットの預言は必須です！

この様な理由で、ダニエル書とヨハネの黙示録両方に関して、長年神学者によって多くの本が出版されてきたのです。

黙示録についてヨハネが言った事に注目して下さい。「イエス・キリストの黙示。この黙示は、すぐにも起こるはずの事を、神がその僕達に示す為キリストにお与えになり、そして、キリストがその天使を送って僕のヨハネにお伝えになったものである」（ヨハネの黙示録１章、１節）黙示録は僕達に「示す」為に与えられたのであって、隠す為ではなかったのです。しかし、それは「神の僕達に」これから起こる事を示す為に与えられたのです。

それでは、アモス書３章７節を見てみましょう、「主なる神は、その僕の預言者達に秘密を明かさずには、何事もなされない。」この地上の神の本当の僕は、聖書の預言を悟るだろうと神は述べています。

神はこの様に言っています。「一人一人に現れる『霊』の働きは、全体の益の為となっています。ある人には『霊』によって知恵の言葉が与えられ、ある人には同じ『霊』によって知識の言葉が与えられ、ある人にはその同じ『霊』によって信仰が、そして、ある人にはこ

の同一の『霊』によって癒しの力が、さらに、ある人には奇跡を行う力が、またある人には預言する力が、・・・」（コリント信徒への手紙１、１２章７－１０節）

使徒パウロは「神は、教会の中に色々な人をお立てになりました。第一に使徒、第二に預言者、第三に教師、・・・」と打ち明けています。（コリント信徒への手紙１、１２章２８節）

したがって神の聖霊の力、すなわち聖書の預言を悟る力は、神の真の教会にあると予言されています。神は数少ない真の僕達に限定的に預言を悟る力を与えようと、はっきり述べています。他の僕達は土地の信徒の集まりで牧師を勤めたり（ペテロやヨハネがそうした様に、使徒行伝８章１４節）、福音を説く為に遣わされるといった他の役割を果たす為に召されるかもしれないが、必ずしも預言を悟る力を持ち合わせているわけではありません。

したがって、全能なる神は意図的に聖書の預言を保守したのだという事がわかります。これらの預言は様々な自称宗教指導者とかカルト集団の組織者達の珍しい「弄び物」として与えられたりはしません。それは古代バビロニアの占い師、天文学者、星読みやウィッチクラフトを取り扱う者達の為にあるのではありません。また、空論家、狂信者、自称予言者とか宗教指導者達の弄び物として与えられたものではありません！

預言を理解する力はまさに真の神の教会の「一部」であるだろうと聖書は教えています。

預言とは何でしょうか？

預言とは前もって書かれた歴史です！

預言とは、神が「ご存知であった」人間本来の気まぐれに応じて、時には必要とあれば神の介入と相まって、神の構想を果たす為の計画全体の概要です！

全能なる神はゲームに興じる事はありません。聖書にある神の預言は単に好奇心を掻き立てたり、知能を刺激したり、少数の者達が神の宣託を独占する為に「秘密」をその者達だけに明かしたりするものではありません。

実際、神の預言者達はよく「証人」と「警告」をもたらしました。彼らは神の民をとがめ、個人的にまた全国的に彼らの大いなる罪を気づかせる為に遣わされたのです。即ち、彼らに罪の結果を気づかせ、悔い改めるよう求めたのです！

著名な一つの例に注目して下さい、「天よ聞け、地よ耳を傾けよ、主が語られた。私は子らを育てて大きくした。しかし、彼らは私に背いた。牛は飼主を知り、ロバは主人の飼い葉桶を知っている。しかし、イスラエルは知らず、私の民は見分けない。なんと罪深き国だろう。咎の重い民、悪を行う者の子孫、堕落した子らは主を捨て、イスラエルの聖なる方を挑発し怒らせ背を向けた。何故お前達は、なおも打たれようとするのか。頭は病み、心臓は衰えているのに。頭から足の裏まで、満足なところは無い。傷や痣、そして膿は治っておらず、包帯や軟膏で手当てもされていない。お前達の国は荒廃し、町々は焼き払われ、田畑の実りは、お前達の目の前で異国の民が食い尽くし、異国の民に覆されて・・・もし、万軍の主が私達の為にわずかでも生存者を残されなかったなら、私達はソドムの様になり、ゴモラに似たものとなっていたであろう。（イザヤ書１章２－９節）

ここでイザヤは、牛舎への道と餌のある仕切りの位置まで正確に知っている愚鈍な牛を、神を完全に見捨てた罪深いイスラエルと対照的に描いています。

それから、体に例えた類推が行われています。「頭」は政府、産業界、会社、教育界、科学並びに軍部の上に立つ人を表し、神は、「その頭はことごとく病み」と言っています！

おそらく心は国の良心、意思や決断力に当たるでしょう。筋肉と体の腱は労働力であり、神経系統や循環器系は空路や陸路の輸送系統でありコミュニケーションに当たる、といった具合です。

「足のうらから頭まで」在るのは「傷や痣、そして膿」ばかりだと神は教えています。

その時、人々は、もし神が少しの生存者を残さなかったなら、神の民はソドムやゴモラと同じ様に完全に破壊されていただろう、と嘆いたのです！イザヤの予言にはイスラエル国の罪に対する多くの懲罰が含まれています。イザヤ書３章１２節の他に、現代のアメリカ、イギリス、北欧の民主主義国家、更にカナダ、南アフリカ、オーストラリアやニュージーラン

ドに関して、ここまで具体的で正確なものがあるでしょうか？

神は次の様に述べられています。「私の民は、未熟な者達に虐げられ、女に支配されている。私の民よ、お前達を導く者は、お前を迷わせ、その道を乱す。」

今日、イザヤ書のこの予言には特に痛感させられる所が有ります。
預言者は、誰一人として志願したわけではありません。

エレミアは、生まれる前から特別に神に召し出されていたのであって（エレミア書１章５節）、他の全ての預言者同様、その務めに自ら志願したわけではありませんでした。

それどころか、「神の言葉」がエレミアに届いた時、彼はこう言いました。「お聞き下さい。私は語る言葉を知りません。私は若者に過ぎませんから。しかし、主は私に言われた。『若者に過ぎないなどと言ってはならない。あなたは私があなたを遣わす全ての土地に出向き、私の命じる事を全て語るのだから。』」（エレミア書１章７節）

さて、２章から始まる神の民イスラエルに対する非難の言葉に注目して下さい。エレミアはこう述べています。「私は、お前達を実り豊かな地に導き、果物や幸福を与えた。ところが、お前達は私の土地に入ると、そこを汚し、私が与えた土地を忌まわしいものに変えた・・・」彼は尋ねて言います、「一体、どこの国が神々を取り替えた事があろうか、しかも、神でないものと。ところが、我が民は己が栄光を利益にならぬものと取り替えた。あぁ、天よ、驚け、この事を大いに惜しみ悲しまれよ、と主は言われる。」（エレミア書２章１１－１２節）エゼキエルでさえ、彼は捕囚の境遇から予言したにも関わらず（エゼキエル書１章１節）、神の民イスラエルに対する恐ろしい非難のお告げを受けました。

“見なさい。私はあなたの顔を彼らの顔の様に硬くし、あなたの額を彼らの額の様に硬くした。・・・”（エゼキエル書３章４－９節）

エゼキエルはまたイスラエルの家に対して特別な指示を与えられた。彼はこう言われました。「人の子よ、私はあなたをイスラエルの家の見張りとする。ですから、私の口の言葉を聞き、彼らに私からの警告を与えなさい。私が悪人に向かって『お前は必ず死ぬ』と言う時、もしあなたが、その悪人の命を救う為に警告せず、悪の道から離れる様に諭さないなら、

その悪人は 自 らの罪故に死ぬ。しかし、 私 は彼の死をあなたの手に寄るものとする。 しかし、あなたが悪人に警告したのに、悪人が自分の邪心と悪の道から立ち帰らなかった場合には、彼は 自 らの罪故に死ぬが、あなたは自分の 命 を救う事となるのだ！（エゼキエル書３章 １７－１９節）

この様に神は預言者達の肩に重い個人的な責任を課したのです！預言者達の個々の使命を果たす功績は直 接 彼 ら自身の 救 済 と結び付いてしていたのです！ もし彼らが悪人達に警告する事に失敗して悪人が死んだ場合、神は予言者に責任を持たせました。

もし彼らが悪人への警告に成功した時は、たとえ彼らのメッセージが無下に 断 られたとしても、預言者は救われたのです。

誰一人進んで神の預言者になった者はいなかったのです！

イザヤは自分は「汚れた 唇 」の者（イザヤ書６ 章 ５節）と言ったが、神は 幻 を通してイザヤをセラフィムの一人に会わせた。その手には祭壇から火箸で取った炭火があった。そしてセラフィムはそれを 私 の 唇 に当て言われた。「見よ、これがあなたの 唇 に触れたので、あなたの不正は取り去られ、罪は赦された。 私 はまた主の御声も聞いた。『誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。』その時[イザヤ]が言った。『私がここにおります。 私 を遣わせて下さい』」（イザヤ６ 章 ５－８節）どちらの場合も、神の預言者達は伝言を伝えたいと思う様に 導 かれなければなりませんでした！

これに関して 最 も顕著な例は、明らかに預言者ヨナの場合で、神が彼に負わせようとしていた責任から逃れようとした時の事です。 ヨナは遭難し、特別に用意された巨大な 魚 に呑み込まれて浜に吐き出されました。ヨナはこの試練の後、謙虚に自発的に行動しました。

アモスが今住んでいる国を出て、神の審判について何も言わないように命じられた時、彼が反抗者達に言った言葉に注 目 して下さい。

「アモスは答えてアマツヤに言った。 私 は預言者ではない。預言者の息子でもない。 私 は家畜を飼い、いちじく桑を栽培する者だ。 主は家畜の群れを追っている 私 をつかまえて、

『行って我が民イスラエルに予言せよ』と言われた。 されば、主の言葉を聞け。 あなたは『イスラエルに刃向かった予言をしてはならない。イサクの家に敵対する事を言ってもならない。』それゆえ、主はこう言われる。お前の妻は町の中で遊女となり、息子、 娘 らは剣に倒れ、土地は測り縄で分けられ、お前は汚れた土地で死ぬ。 イスラエルは 必 ず捕らえられて、その土地から連れ去られる。」（アモス書７章１４－１７節）

この様にして神は以前様々な仕事に就いていた何人かの人を特別に呼び寄せ、彼らに神の伝言を与え、その伝言を持って、手に負えない強 情 で反抗的な神を拒む人達の 所 へ行くように命じました。

彼らはいつも拒絶されました！ 反抗的なイスラエルは神の伝言と警告を、今日までそうし続けてきた様に跳ね除けました！

イエスはパリサイ人への神の激しい懲 罰 でこの点に触れています。彼は次の様に言われました。「だから、 私 は預言者、賢者、学者をあなた達に遣わすが、あなた達はその中の何人かを殺し、十字架に貼り付け、また何人かはシナゴーグで鞭打ちにし、町から町へと追い回して迫害するだろう。こうして義人アベルや、あなた達が聖所と祭壇の 間 で殺したバラキアの子ゼカルヤの血に至るまで、全ての正しき者達の血があなたの手によって地に流される事となる。これらの事は全て、今の世代の者達に降りかかって来ると断言しよう。 あぁ、エルサレム、エルサレムよ。預言者達を殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集める様に、 私 はお前の子らを何度庇護しようとした事か。だが、お前達は応じようとしなかった。 見よ、お前達の家は見捨てられて荒れ果てる。」（マタイによる福音書２３ 章 ３４－３８節）

おそらく預言者全員の要約はエレミアからイスラエルまでの神の言葉の中に見いだす事が出来るでしょう、「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。お前達の焼いた捧げ物を生贄の肉に加えて食べるがよい。 私 はお前達の先祖をエジプトの地から 導 き出した時、焼いた捧げ物や生贄について語った事も命じた事もない。 むしろ、 私 は次の事を彼らに命じた。『 私 の声に聞き 従 え。そうすれば、 私 はあなた達の神となり、あなた達は 私 の民となる。 私 が命じる道にのみ歩むならば、あなた達は 幸 いを得る。』しかし、彼らは聞き

従わず、耳を傾けず、彼らの頑なで悪い心の企みに従って歩み、精進せず堕落していった。お前達の先祖がエジプトの地から出たその日から、今日に至るまで、私の僕である預言者らを、常に繰り返しお前達に遣わした。 それでも,私に聞き従わず、耳を傾けず、それどころか、より頑固になり、先祖よりも悪い者となった。・・・それ故あなたは彼らに言うがよい。『これは、永遠の神の声に聞き従わぬ国であり,更正しようともせず,その民の口からは真実が切り取られ失われてしまったのだ！』」（エレミア書７章２１－２８節）

神が遣わされた偉人達の大きな犠牲と、聖書の文献における彼らの多大な貢献、そして、彼らが現代の私達に示した模範の為、彼らは新約聖書の「神の教会」のまさに基盤の一部だとイエス・キリストは言われました。

次の句に注目して下さい。「この方（キリスト）を通して、私達両方（ユダヤ人と異邦人）が一つの霊を介して、御父に近づく事が出来るのです。 従って、あなた方はもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に成り立っているのです。その要はイエス・キリストご自身であり」（エフェソの信徒への手紙２章１８－２０節）

預言は二元的です。

聖書の予言の多くは二重になっています。すなわち、聖書は、一つの主張とその反論、一つの形体とその対照形、先に（大抵は即時に）成就される事と後日最後に成就される事といった表明から成り立っているのです。

実際、ある形体とその対照形、現実の「幻影」、言葉のあや、比喩、例えばなし、類推など、私達の文学や日常の会話に多く使われている様に、聖書の至る所でふんだんに使用されています。

おそらく二元性の最も顕著な例の１つは、マタイによる福音書２４章でイエス・キリストが預言したイスラエルの差し迫った崩壊でしょう。（マルコによる福音書１３章とルカによる福音書２１章も併せて参照して下さい。）

預言の冒頭でイエスが次の様に言われた事に注目して下さい。

「はっきり言っておく。一つの石もここで崩れずに他の石の上に残る事はない。」（マタイによる福音書２４ 章 ２節）

それから偽メシアや偽預言者についてのオリベットの預言が続きます。戦争や戦争の 噂 、世界規模の衝 突、飢饉、疫 病、地震の全てが「悲しみの始まり」「大いなる艱難の開始」として書かれています。（マタイによる福音書２４ 章 ２１節）

艱難の次に天の 徴 の記述があり（マタイによる福音書２４ 章 ２９節）,それに続いて「人の子の 徴 が天に 現 れ」（３０節）,「キリストの再来」（３０,３１節）が述べられています。

その 章 はキリストの警告で締め括っています、「その日、その時は、誰も知らない。天使達も知らない。ただ、御父だけがご存知である。・・・」（３６節）といったものや、キリストの間もない帰還の際、人々はその時世時節の意味に 全 く気付かず、気にもかけずに暮らしているだろうという警告（３７－３９節）、そして、気を付けずに不意ふちを食う者達の例（４８－５１節）があります。

この預言に事実に 基 いた 単 純 な調査を 行 う事で,その二元的な性質が簡単に理解出来ます。

というのは、エルサレムがこの預言から約４０年後に破壊されたからです！ ヨセフスは想像しうる 最 も残忍で恐ろしい虐 殺 を書き記しています。長引く包囲、ひどい飢饉と飢え、最 終 的な町の征服、何万人ものユダヤ人が串刺しにされ拷問を受けて死に至る様、町を取り巻く城 壁 上 部の石が剥がされ崩れ落ち、名のある神殿は汚される、といったものです。

ナザレのイエス・キリストの預言どおり、その時代に生きる人達はオリベットで預言された事象が実現する前には滅びませんでした。

しかし,「天の 徴 」は見られませんでした！「人の子の 出 現 の 徴 」は天に 現 れなかったのです！ ナザレのイエス・キリストは、その時戻って来ませんでした！更に、「一つの石も他の石の上に残されていないだろう」というイエスの預言を文字通り 解 釈 したとします。ですが、都市が破壊されたにも関わらず、何千という石が無傷のまま今日現在まで残っています。

聖書の熱心な研究者や熱烈な信者達にとって、イエスのオリベットの預言の二元性は明らかです。それは、紀元７０年から７１年の間に、ローマ皇帝ティトゥスの軍によるエルサレムの略奪と破壊という形で、既に以前実現しています。ですが、聖書によれば、驚いた事に、今現在のエルサレムの町が将来もう一度破壊される事になっています。

他にも二元性を示す２つの例が、バビロン王（イザヤ書１４章４節）とティレ（原語発音：タイアー）の君主（エゼキエル書２８章２節）の記述の中にあります。

聖書の解説者は皆、これらの人類、実在した皇帝や都市国家、そして、悪魔サタンの二元性において須く同意しています。

バビロン王は悪魔サタンの一種であり、イザヤ書１４章１２－１４節で記述されています。ティレの君主も悪魔サタンの一種で、エゼキエル書１２章の中頃から同じ章の１７節後半にかけて記述されています。

この２章両方には次の様な第三の引喩的な意味があります。それは古代バビロン王もティレの君主も、やがて来る中央ヨーロッパの軍事独裁者や、ダニエル書１１章４０節の北の王、等という有名な「獣」を引喩した典型だったという事です。その者は偽預言者と協力し、キリストの再来時に滅ぼされる、未来の強大な世界的独裁者なのです。（ヨハネの黙示録１９章２０節）

聖書には二元性だけでなく、引喩や典型の例が沢山あります。

かくして、旧約聖書と新約聖書があり，古い契約と新しい契約があり、最初のアダム（肉体を持ちエデンの園に住むアダム）と「第２のアダム」（イエス・キリストの事。コリントの信徒への手紙Ⅰ、１５章４５、４６節）が存在するのです。ファラオは悪魔サタンのシンボルであり、モーゼとアロンはヨハネの黙示録１１章の「二人の証人」に当てはまり、エジプトは「罪」の一例で、イスラエル人の存在は神に魂を許される典型なのです。

エジプト脱出の時に古代エジプトに降りかかった疫病は、獣の力によって降り注がれる大いなるトランペットの災難を表し、イスラエル人を囚われの身から解放したのは将来キ

リストの再来の時に神の民を 再 び集める事を 表 しています。（イザヤ書１０ 章 ２０、２１節、イザヤ書１１ 章 １１、１２節、イザヤ書１１ 章 １５、１６節、イザヤ書１９ 章 ２３、２４節、エレミア書５０ 章 １８、１９節、エゼキエル書１１ 章 １７－２０節、ホセア書１ 章 １０、１１節、ヨエル書２ 章 １８－２０節、ゼカリア書１ 章 １７節、ゼカリア書８ 章 ３－８節、等。）

紅海の海を割った道を通ってイスラエルの子らが脱 出するのは教 会の洗礼の 象 徴 であり（コリンと信徒への手紙Ｉ,１０ 章 １－４節）,彼らの「罪の荒野」での滞在は,新たに洗礼を受けたキリスト教徒に立ちはだかるものに打ち勝つ為の生活を 象 徴 的 に 表 しています。

ヨルダン川を渡って「約束の国」へ向かうのは、キリスト教徒が神の王国を授かる事の 象 徴 であり、４０年の放浪生活は（４０という数字は聖書の試練またはテストを 表 しています）、新たに生まれたキリスト教徒一人一人が 直 面 する試練や苦難の 象 徴 となっています（ヨハネの黙示録１６ 章 ３３節）。聖書の中には、神の計画の引喩的な例えである典型が文字通り沢山存在しています。

従 って、年に何度かある祝 日 は、それぞれが神の目的の真実をなぞったものなのです。そういう意味では、祝 日 は預言的なものと言えます。

（1）過越し祭（主の晩餐）と子羊の血を流す 行 いはキリストの犠牲を 象 徴 したものでした。 新約聖書では、生贄の子羊に代わって、キリストが種なしパンとひとすすりのワイン（キリストの打ち砕かれた 体 と流された血の 象 徴 ）を代用したが、それは同じ事の 象 徴 でした（マタイによる福音書２６ 章 ２６－２８節）。キリスト教徒が過越し祭に参加する事は、イエス・キリストの流された血を自分の罪をあがなう個人的な救 世 主として受け入れる事を 象 徴 しています（コリント信徒への手紙Ｉ 、１１ 章 ２３－３０節）。

（2）種なしパンの日は精 進 に満ちた人生を送る事を 象 徴 的 に 表 しています。種の入ったパンは、虚栄心、うぬぼれ、ねたみ、貪欲といった人間性の卑しい要素で「膨 張 」している状 態 の 象 徴 です。 種なしパンを７日間食べる事は、（元来エジプトの過越し祭と 出 エジプトと直 接 関 係があったのですが）キリスト教徒がキリストと洗礼を受け入れた後に

送る精進に満ちた人生を象徴的に表しています。（コリント信徒への手紙Ⅰ、５章２－８節、レビ記２３章５，６節）

（３）五旬節は（使徒行伝２章、レビ記２３章９－１６節）「初穂」の収穫であって、神は「今」全世界を救おうとしているのではなく、ただ「初穂」を主の元へ呼んでいる事を示唆しています。そして、イエス・キリストこそが「最初」の初穂であり、後の日の大掛かりな人間の命の収穫が、その後を追ってやって来る事を示唆しているのです。「ペンテコスト」とは単に「５０番目」を意味し、週毎の安息日から５０日目に、「種なしパンの日々」の間に起こった「初穂の収穫」のギリシャ名の英語訳です。

（４）トランペットの祭り（レビ記２３章２３節、民数記２９章１節）は主に「最後のラッパ」に集中した祭りで（コリント信徒への手紙Ⅰ、１５章５２節）、それはイエス・キリストの再来の時に響き渡ります。もっとも、それは黙示録の中で明かされた神の災難と結びついた全てのトランペットの意味も含んでおり、（ヨハネの黙示録８章６，７，８，１０節など）、地上に住む人々に対してキリストがまもなく到来する事の宣言や警告を象徴的に表しています。その様なわけで、トランペットの祭りは地上で成し遂げられる「神の御業を意味する祭典でもあります。「神の王国」の福音を、証と警告の意味を込めて説く祭典なのです。（マタイ伝２４章１４節）

（５）贖罪の日（レビ記２３章２７－２９節）にも元来の儀式では多くの引喩や典型が含まれていました。それは今日も断食の形で続けられています。（使徒行伝２７章９節、余白）その日は神と「一体となる」事を象徴しており、将来全世界が最終的に神と和解する時を描いています。

（６）幕屋の日は古代イスラエルの滞在と、彼らが仮の住家として仮小屋（タバナクル）に住んだ事実を象徴したものです。現代において、キリスト教徒とは「選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神に属する民・・・異教徒や巡礼者」（ペトロの手紙Ⅰ、２章９－１７節）も含んだものです。　しかしながら、もともと幕屋の日は秋の「収穫を祝う祭り」で、豊作を祝う日です。それは神の王国がこの世に到来する事を予言し、まもなく地上

に到来する神の王国を表 現 した大いなる 喜 びの時でありました。（今でもこの日は祝うべきだと解っている人達によって祝われています。）

（7）最後の審判の日（レビ記２３ 章 ３９節）は幕屋の祭りのすぐ後に続き、 毎年ある７番目の神の祝 日 に当たります。それは「偉大なる白い玉座の裁き」（ヨハネの黙示録２０ 章 １１節）と第２の復活（ヨハネの黙示録２０ 章 ５節）を表 現しています。それは、裁きの時（刑の宣告ではありません！）であり、明確な１００年の期間の 間 （イザヤ書６５ 章 ２０節）に 行 われ、生きている 間 に一度も召された事や、 真 の救いの機会を与えられなかった人達の為のものです。

この様に、年に７回の祭日、または祝 日 には、まさしく「神の計画」を表 現 した完全な典型や引喩が見出されているのです。

聖書には文字通り 何 十 という引喩的な典型があります。 その内の数少ない例として、 アブラハムがいます。アブラハムがイサクを差し出す様に命じられた時、彼が進んでその命に 従 った折、代わりに雄羊が差し出されました。これは、御子イエス・キリストを 自 ら差し出した父なる神を投影させた例なのです。 モーゼはある意味（ 掟 を授けた点で）父なる神の 特 徴 を持ち、また（神とイスラエルの 仲 介 者 として）神の子キリストの典型とも言えます。モーゼとアロンは共に黙示録１１ 章 の二人の 証 人 の典型です。ファラオの王 宮 の二人の魔術師、ヤンネとヤンブレは「 私 の民を行かせて下さい」と述べている二人の 証 人 の 象 徴 です。ダビデはイエス・キリストの典型です。ユダヤ人のバビロニア捕囚からの解放に際立って描かれている 、エズラ、ネヘミアとゼルバベルはイエス・キリストの 象 徴 なのです。

詩的表現による説明

聖書の大部分が詩の 形 で書かれている事も覚えておいて下さい。（詩篇や雅歌といった）詩的な筆記が沢山あり、また主要な預言の多くが詩で書かれています。

詩的な意味の例の一つとして、イザヤが 自 ら認めた「汚れた 唇 」の身を清めるかの様に、その 唇 に燃えた炭火をのせた事があります（イザヤ書６ 章 ）。他にも有名な例として、エレミア書１３ 章 １－１０節、２５ 章 １５節、２７ 章 ２３節とエゼキエル書３ 章 ２、３節、

４章４－６節があります。解放の喜びを歌う詩的表現の例が幾つかイザヤ書３５章１－７節、５５章１２、１３節、そしてヨエル書２章２１－３０節に見られます。

聖書のシンボル説

聖書はよく思想やアイディアを表す為にシンボルを使います。聖霊は幾つかの力の物理的な具現化に関連付けられています。例として水（ヨハネによる福音書３章５節、エフェソの信徒への手紙５章２６節、ヨハネの手紙Ｉ、５章６節、ヨハネの黙示録２２章１、１７節）、火（使徒行伝２章３節、ペトロの手紙Ｉ、１章７節、ヨハネの黙示録３章１８節、など）、そして風（ヨハネによる福音書３章３節、使徒行伝２章２節、等）があります。

水は生命になくてはならない命を与えてくれる物質であり、風すなわち空気も生命に絶対必要です。浄化したり（金属などの場合）清めもし、また破壊の力を持つ火。これらは強力な神の聖霊を表すものとしてよく使われています。

更に、太陽や星の「光」も同じ様に使われています。もし聖書が現代書かれたとしたら、おそらく神はその大いなる力と威力を表すものとして核エネルギーやレーザ光線を使ったでしょう。

もう幾つかの聖書のシンボルに注目して下さい、「終わりの日に、主の神殿の山は、他の山々の上に君臨し、どの峰よりも高くそびえよう。国々はこぞって大河のようにそこに向かうだろう　そして、多くの民が来て言うでしょう。「主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。されば、主は私達に道を示され、私達はその道を歩もう」と。主の法はシオンから出で、御言葉はエルサレムから出る。主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、戦を知る事はもう無いだろう。」（イザヤ書２章２－４節）

他の多くの預言同様に、ここにおける山とは「神の統治」の象徴である事は明らかです。最後の大地震で事実二つに裂ける事になっているオリーブ山に、地上での司令塔である神の神殿が建つであろうと言う聖書の予言には、おそらく文字通りの意味と象徴的な意味が含まれています。（ゼカリア書１４章４－９節）

主の家は「山々の上に君臨し」建てられるだろうという聖書の記述は、いわゆる全ての強大な力や大国を凌駕する事を意味し、「どの峰よりも高くそびえよう」というのは全ての小国の上に立つ事を意味します！

星は天使の象徴として使われています。（ヨハネの黙示録９章１節）ヨハネが見たイエス・キリストの幻影には（ヨハネの黙示録１章）「その方の右手には７つの星・・・」があったとあります。（ヨハネの黙示録１章１６節）ここに聖書そのものの観点から見た聖書の解釈の仕方の例があります。単純にヨハネが見たもの全ての記述を読み進んでいくと、次の第２０節に到達します。「あなたが私の右の手に見た七つの星と、七つの金の燭台の秘密だが、七つの星は教会の天使達であり、・・・」（ヨハネの黙示録１章２０節）

イエス・キリストは「輝く明けの明星」と言われています。（ヨハネの黙示録２２章１６節、ヨハネの黙示録２章２８節）

「獣」または凶暴で飢えた生き物といったものは、よく異教徒の政府または王国を指して使われます。例えばダニエル書の７章では４匹の大きな獣が描かれています。その記述に注目して下さい。「第一のものは獅子の様であったが、鷲の翼が生えていた。見ていると、翼は引き抜かれ、地面から起こされて人間の様にその足で立ち、人間の心が与えられた。（これはネブカドネザルの狂乱と回復をさしています。）第二の獣は熊の様で、横ざまに寝て、三本の肋骨を口にくわえていた。これに向かって、『立て、多くの肉を食らえ』という声がした。次に見えたのはまた別の獣で、豹の様であった。背には鳥の翼が四つあり、頭も四つあって、権力がこの獣に与えられた。この夜の幻で更に続けて見たものは、第四の獣で、それはおぞましく、恐ろしく、非常に強く、巨大な鉄の歯を持ち、食らい、噛み砕き、残骸を足で踏みにじった。他の獣と異なって、これには十本の角があった。その角を考察していると、もう一本の小さな角が生えてきて、先の角のうち三本はその為に引き抜かれてしまった。この小さな角には人間の様に目があり、また、口もあって尊大な事を語っていた。なお見ていると、王座が据えられ、『日の老いたる者』がそこに座した。その衣は雪の様に白く、その白髪は清らかな羊の毛の様であった。その王座は火炎の様であり、その車輪は燃える火の如く」（ダニエル書７章４－９節）

さて、こうした様々な獣の意味を明らかにする際の、聖書独特の解釈の仕方に注目して下さい。同じ章を読み続けていると、第１７節に到達します。「これら四頭の大いなる獣は、地より出で立つ四人の王である。」王が王国を表している事はダニエル書の第２章を読めばはっきりします。ここでネブカドネザル王の見たものであり、ダニエル書２章３２－３５節で述べられている大いなる肖像が見えてきます。

ダニエルは奇跡を通して夢の解釈を与えられ、それをネブカドネザルに明かします。彼は言いました。「あぁ、王の中の王よ。天の神はあなたに国と、権力と、強さと、栄光を授けられました。そして、いたる所の人間も野の獣も空の鳥も、皆あなたの手に下り、あなたを彼らの支配者としました。あなたは黄金の統治者なのです。あなたの後に、あなたに劣った他の国が興り、さらに、第三の青銅の国が全地を支配する事となるでしょう。また、第四の国は全てを打ち砕く鉄の様に強いことでしょう。そして、あらゆるものを破壊する鉄の様に、この国は全てを粉々に破壊します。あなたも見た、一部が陶土で一部が鉄でできている足とその指の様に、その王国は分裂するでしょう。鉄が柔らかい陶土と混じっているのを御覧になった様に、この国には鉄の強さも備わっています。足の指は一部が鉄、一部が陶土です。ですから、この国には強い部分もあれば、脆い部分もあるのです。また、鉄が柔らかい陶土と混じり合っているのを御覧になった様に、人々は婚姻によって混じり合います。しかし、鉄が陶土と溶け合う事がない様に、一つになる事はありません。この王達の時代に、天の神は一つの国を興されます。この国は永遠に滅びる事なく、その主権は他の民の手に渡る事なく、全ての国を打ち滅ぼし、永遠に続くでしょう。」（ダニエル書２章３７－４４節）

これほど明白なものがあるでしょうか？大いなる肖像の頭はネブカドネザル王を表し、王と王国は完全に互いに置き換われるもので、同じ事を意味します。

聖書はこう書いています。「あなたの後に、あなたに劣った他の国が興り、さらに、第三の青銅の国が・・・」（ダニエル書２章３９節）聖書の研究家や歴史家はバビロニア、メドペルシャ、ギリシャ・マケドニアそしてローマ帝国という世界を支配した四大異教国家が明らかに続いた事実を一般的に受け入れています。

この明白な預言で多くの人々が見落としてきたのは、ダニエル書第２章の大いなる肖像と、第７章の４番目に登場する獣がキリストの再来で終わりを迎えるという事実です。したがって、４番目の獣、すなわち歴史を通して何度も回復と復活を繰り返すローマ帝国は、キリストが再来する直前の時まで在存する事になっているのです！

イエス・キリストが復活するのは「この王達の時代」（ダニエル書２章４４節）なのです！この場合、「この王達」はダニエル書２章の大いなる肖像の十本の足指の事です。

聖書の証言に注目して下さい。「また、あなたが見た十本の角は、まだ王国を授けられていない十人の王である。だが、彼らは一時の間、獣と共に王として権力を授けられるだろう。この者達は、心を一つにしており、自分達の権力と強さを獣に委ねるだろう。彼らは子羊と戦うが、子羊は主の中の主であり、王の中の王なので、彼らに打ち勝つでしょう。そして、子羊と共にある者達は、召され、選定され、誠実であるだろう。」（ヨハネの黙示録１７章１２－１４節）

キリストの再来までに、中央ヨーロッパにおいて、十の国が強力な独裁制度の元に統一され、おそらく「ヨーロッパ合衆国」と呼ばれるようになる事に疑いの余地は在りません。

獣の「角」は国家の国民的または宗教的な指導者達の象徴です。ダニエル書７章の「小さな角」は中世に様々な政府を打ち倒した教皇を指している事は明らかです。

イスラエルの形状は（イスラエルの家やユダの家を含めて）常に女性として描かれています。実際、全能なる神はイスラエルを花嫁として、神を旧約聖書を申し出る求婚者として描いています。神はイスラエルに掟を授け、イスラエルの守護者、平定者そして供給者になると約束する事で「プロポーズ」したのです。イスラエルが神の掟の契約条件を受け入れた時、両者の間に「契約」すなわち同意が成立しました。

神は「婚約」という比喩を使って、「私は彼らの夫であった」と言いました。（エレミア書３１章３１－３２節）

イスラエルが契約の条件を破った時、神はその行為を姦淫または売春と呼びました。エゼキエル書１６章全体を読んで下さい。そこで神はイスラエルを、捨て子であったのを神が見つけた、若くて美しい女性として描き、「野の若草の様に増えさせた」（エゼキエル書１６章７節）が、イスラエルは神を見捨てて「その美貌を頼みとし、姦淫を行いました。」（エゼキエル書１６章１５節）エゼキエル書２３章もまた重要な章で、その中でイスラエルの家（北の十氏族）は「アホラ」と呼ばれ、ユダの家を象徴するエルサレムは「アホリバ」と呼ばれています。

この章はさらに、神との契約を破り異教徒の民と交じり合う彼らの姦淫を描いています。

教会は「身に太陽をまとい、月を足の下にし、頭には十二の星の冠をかぶった」女性として描写されています。（この場合、ヨハネの黙示録１２章１節の１２人の使徒達を象徴的に表しています）旧約聖書の中のいくつかの預言を読む際、「シオンの娘」とか「シオンの娘達」と呼ばれる女性の記述は必ずしも教会を意味しないという事に注意しなくてはなりません。

イザヤ書３章１節に１つの例があります、「主は言われる、シオンの娘らは高慢で、首を伸ばして歩く。流し目を使い、気取って小股で歩き・・・」。この言葉は明らかに国としてのイスラエルの女性達を指しています。神はまた大きな過ちである普遍的な教会を語るのに、売春婦または堕落した女を象徴的に使っています！次の言葉に注目して下さい、「沈黙に座し、闇に入れ、カルデアの娘よ。諸国の女王と呼ばれる事は二度とない。私は自分の民に対して怒り、私の遺産を汚し、お前の手に渡した。お前は彼らに憐れみをかけず、老人にも枷を負わせ、甚だしく重くした。私は永遠に女王だ、とお前は言い何事にも心を留めず、その結末を考えなかった。

しかして今これを聞くがよい。快楽に浸り、安楽に暮らす女よ。心の中で、私は他に並ぶ者など居ない唯一の者であり、やもめになる事なく、子を失う事もない、と言う者よ。しかし、その両方が、一日のうちに、瞬く間にお前に起こり、子を失いやもめとなるだろう。どれほどの魔術や呪文を唱えても無駄だ。お前は平然と悪事をし、『見ている者はいない』と言っていた。お前の知恵と知識がお前を堕落させ、お前は心の内で言っていた。私は他

に並ぶ者など居ない唯一の者である、と。（イザヤ書４７章５－１０節）ヨハネの黙示録１７章５節も参照して下さい。

時間の流れの理解

神は聖書の時間の流れを理解する為に、ある特別な鍵を与えてくれます。

次の言葉に注目して下さい。「お前達の子供は、荒れ野で四十年の間羊飼いとなり、お前達の最後の一人が荒れ野で死体となるまで、お前達の背信の罪を負う。あの土地を偵察した四十日という日数に応じて、一日毎に一年を課した四十年間、お前達は罪を負わねばならない。・・・」（民数記１４章３３－３４節）

神ははっきりとイスラエルの民の先遣隊が約束の土地を探した日数は、彼らがシナイ半島の荒野で彷徨った年数を表すと私達に教えてくれています。

それでは、エゼキエル書の４章に注目して下さい。エゼキエルは「イスラエルの家に至る案内板」としてタイルにエルサレムの町の地図を描くように言われます。彼は、砂場で遊ぶ子供の様に、城壁をめぐらせた町を描き、当時の包囲用兵器を全て整えて町に進軍する軍隊を描き、それからイスラエルが罪を負う年数を描く為に、最初は一方の脇の上に、それから反対側に横になりました。

「私はお前に、三百九十日という、彼らの罪の年数に応じた日数を、お前がイスラエルの家の罪を負うものとして与える。その期間が終わったら、次に右脇を下にして横たわり、ユダの家の罪を四十日間負わねばならない。私はお前に一日毎に一年を課すとする。（エゼキエル書４章４－６節）

この、聖書の預言を理解する上で重要な鍵を、実際に応用した例を確かめるには、ヨハネの黙示録１２章と１３章を参照して下さい。ここで、女性（この女性は神の真の教会を表すと習いましたね）が「大きな鷲の翼」を授けられ（神の保護の象徴－出エジプト記１９章４節）、荒野の自分の場所へ飛んで行き、蛇から逃れて一時、二時、また半時の間やしなわれる。（ヨハネの黙示録１２章１４節）

後に１３章で、偽の預言者と獣によって迫害された期間は「四十二ヶ月」である事が読み取れます。（ヨハネの黙示録１３章５節）

しかし、ヨハネの黙示録１２章６節では、同じ期間が千二百六十日と呼ばれています。１日は実際１年を表すという鍵を用いて単純に計算すれば、神の真の教会がひどい迫害を経験した中世は、実は千二百六十年間であった事が分かり、更に預言に出てくる１年は１ヶ月を三十日とした三百六十日である事がわかります！

この様なわけで、預言の目的で書かれた聖書の「時間」の意味が分かってきます。

一時は聖書の預言では１年にあたります。だから、「一時、二時、それから半時」は丁度３年半を意味します。３年半は一月３０日とした４２ヶ月で成り立っています。この様にして、千二百六十日、四十二ヶ月、また三年半という表現があるのです。

明らかに、大いなる艱難、天の徴や主の日は、この３年半に当てはまります。

注意：聖書の預言の中で「日時を決め」ようとしてはいけません。何らかの具体的な鍵、すなわち数字を載せた表とかギリシャ語、ヘブライ語、英語などで書かれた数値を解き明かしたと思い、ある大掛かりな預言が成就される特定の日を算出したと考えるのは大きな誤ちであり、多くの人達が落胆と共にこれを学びました。

聖書の預言の全景

オリベット山でのイエス・キリストの預言は現代に生きる私達にとって最も大切なものです！これらの預言こそが、ヨハネの黙示録に載っている出来事の順序を解き明かしているのです。詳しく言えば、６章と７章の初めから、黙示録の終わりに掛けて発展する艱難の一般的なテーマや天の徴、そして主の日の事です。（マタイによる福音書２４章、マルコによる福音書１３章、ルカによる福音書２１章）

これらの重要な出来事の順序を理解する為の、もう一つの主要な鍵に注目して下さい。ヨエル書２章３１節を、マタイによる福音書２４章２９節と注意深く読み比べ、それから、ヨハネによる黙示録の第６章と７章をお読み下さい。

この様に少し調べただけで、大きな艱難（マタイによる福音書２４章２１、２２節）またはヤコブの苦難の時は、天の徴の「前」に起こる事が分かるでしょう。天の徴は艱難の「後」からやってくる事が分かります。主の日は天の徴の「後」からやって来るのです！

この様に単純な理解を介するだけで、「大いなる艱難」に先立って地上から教会が取り去られると主張する「携挙（ラプチャー）」を説く人達は完全に誤っている事が分かります。

携挙を説く人は、一般に艱難と主の日を同一視して混同しています。

今まで学んだ事の助けになるように自分で簡単な勉強をされる事をお勧めしますが、それにはマタイによる福音書の前半で、イエス・キリストがこの地上に起こす大きな出来事について短く記述されている所をお読み下さい。

それと共に、ヨハネの黙示録６章と７章もお読み下さい。キリストが最初に預言したのは「偽のキリストと偽の預言者」が現れるだろうという事に注目して下さい。さて、「黙示録の四騎士」（ヨハネの黙示録６章）のうち最初の者は、キリストの様に見えるが、「鋭い諸刃の剣」ではなく弓を持っています。彼は勝利に勝利を重ねる為に出て行きます。多くの人達がこの預言について混乱しています。それはキリストを意味するのでしょうか？イエス・キリストご自身にその解釈をしてもらいましょう！「いかなる預言も個人的な解釈の対象ではない」という事を覚えておいて下さい。

黙示録の四騎士の二人目は、戦争を意味する赤い馬に乗っている事に注目して下さい。大いなる事象のうち２番目の事象はどうなると、イエスは言いましたか？「戦が起こり戦の噂が広まるだろう！」です。

一度事象の順序をはっきりさせると、ヨハネの黙示録６章の「四騎士」それぞれの意味が分かってきます。（１）偽のキリストと偽の預言者、（２）戦と戦の噂、（３）飢饉、（４）死と破壊。

第５の封印は艱難の象徴であり、第６の封印は天の徴、第７の封印は七つのトランペットの災いです。

十四万四千人と「数え切れない大群衆」（ヨハネの黙示録７章）の者達は、大いなる艱難の最中、またはその後でしか額に神の刻印は押されないに事に注目して下さい。（ヨハネの黙示録７章１４節）したがって、彼らはその期間はまだ地上にいるのです。

ブリンガー博士は、コンパニオン・バイブル（Zondervan出版）の中で、ヨハネの黙示録６章、７章とマタイによる福音書２４章を比較する面白い図表を付録に収めています。

勉強の一例として、ヨハネの黙示録１７章を注意深くお読み下さい。七つの有名な丘の町にどの教会があるのか自分に尋ねてみて下さい。どの教会が、幾度と無く復活してきた「神聖ローマ帝国」を含んだ、多くの強大な異教徒の国々を支配してきましたか？どの教会が「聖者の血に」酔ってしまいましたか？

この強大な偽の教会はキリスト降誕の時に戦う、十の王国の結束に実際手を貸す事に注目して下さい。地上の王達の上に君臨する強大な都市に在るのは、どの教会ですか？

考えてみて下さい。

信じられないかもしれませんが、ヨハネの黙示録１７章という聖書のほんの１章を注意深く調べるだけで、あなたは聖書の預言に関する本の著者を含めた、多くの人よりずっとましな理解をする事が出来ます。

勿論、私がこの小冊子で簡潔に触れてきた内容は、数冊の大きな書物にも容易く拡大し得るものです！ここではそうする時間も余地もありません。この小冊子で学んだ事を案内役として利用する事で、あなたは聖書の預言の大部分をより良く把握し理解する事がきっと出来るでしょう。

― 終 ―

この資料は、内容を改ざんせず、著者と出版社を明確にした上でなら、コピーして友人や家族に無料で配布する事が出来ます。一般大衆向けに出版する事は出来ません。

この出版物は個人的な探求の道具として利用されるよう意図したものです。どんな内容でも人の言葉をそのまま受け入れるのは賢明ではないという事を理解し、全ての事柄に関して、あなたはご自分で聖書に基づいて証を立てるようにして下さい。

ガーナーテッドアームストロング福音協会

私書箱 ７４７Flint、テキサス ７５７６２

電話番号：（９０３）５６１-７０７０　　Fax:（９０３）５６１-４１４１

なお当福音協会のウェブサイトでは多くの文献が無料で入手できます。

www.garnertedarmstrong.org/

ガーナーテッドアームストロング福音協会の活動は、キリスト教徒とイエス・キリストの教えに従って福音を説く、協力者からの自発的な十分の一税、奉納及び献金で成り立っています。